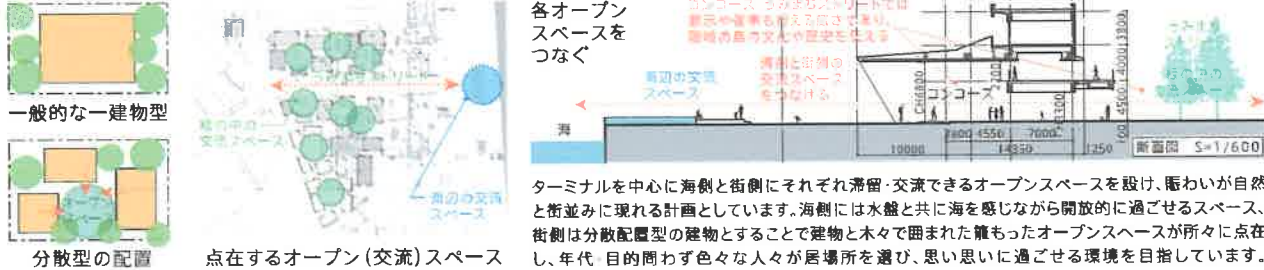


交通：効率的な交通機能と安心・安全な歩行空間の実現



交流：様々なオープンスペースが生まだす滞留と交流

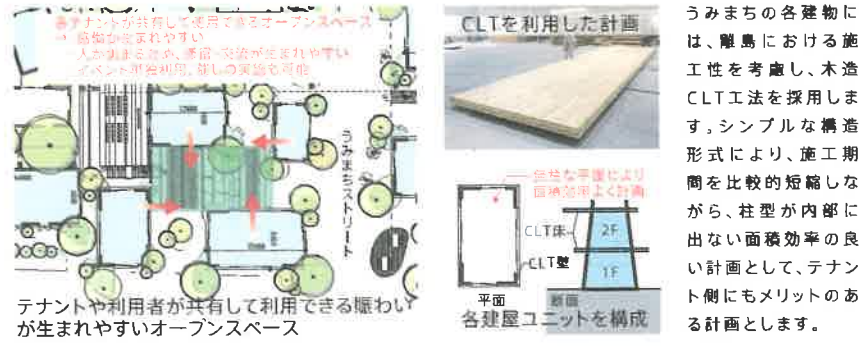
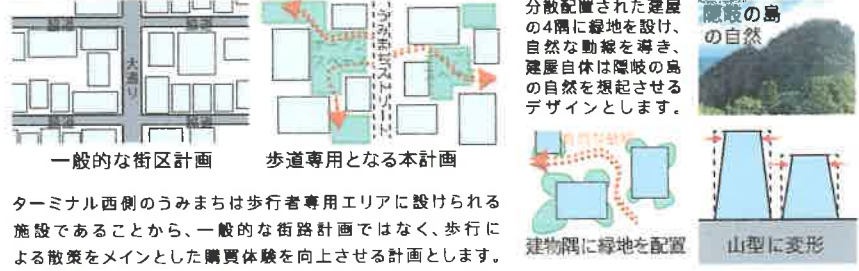


県産材(杉板材、隠岐片麻岩)に包まれた大きな軒下空間のコンコースはだれもがオープンに集える場となります

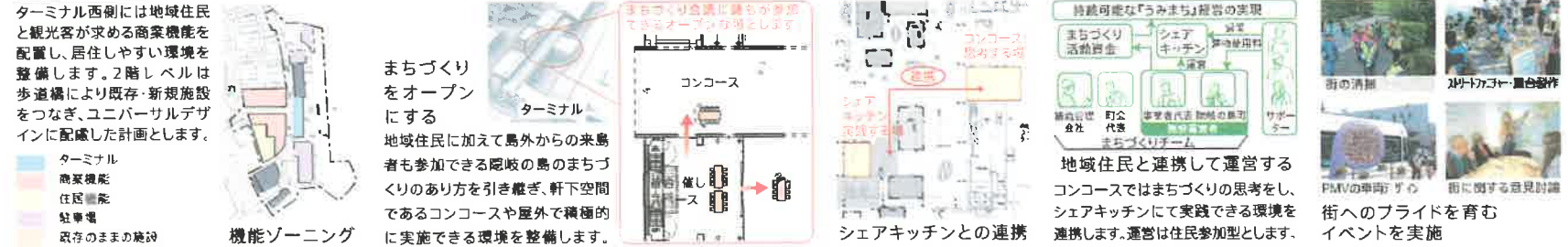
景観：統一した外観意匠と県産材で包まれた大きなコンコースにより来島者を出迎える



商業：緑豊かな街並みを散策しながらの購買体験を提供



暮らし：シェアキッチンによるまちづくりの実践を通して地域住民のシビックプライドを育む



防災：台地までの明快な動線計画が緊急時の迅速な避難を促す



少しずつふくらます

設計趣旨（デザインコンセプト）

既存のまちのインフラや社会環境がもつポテンシャルをふくらます

- フェリーターミナルとその周辺環境が潜在的にもっている可能性を丁寧に掘り起こし、それらを少しずつふくらます（拡張する）ことによって、コストを抑えながら機能的でデザイン性に優れたターミナルと周辺環境を整備します。
- 元々ある暮らしや商業のポテンシャルを少しずつふくらますことによって、加えて島外からも活気を呼び込むことにより、まちに賑わいを生み出します。
- 大小さまざまな交流の場を用意し、そこに旅行者や移住者も加わって、既にある活動が少しずつふくらむことにより、新たな連携や協働の機会をつくり出します。

フェリーターミナル前のT字路は、見通しを確保すると共にハンプ状のスクランブル交差点とし、歩行者の安全性をより高めます。

ジオゲートウェイ

A 立面を少し膨らます

フェリーターミナル

フェリーターミナル2階と中町方面、つきやま広場、ポートプラザ方面を安全に楽しく繋ぐブリッジを掛けます。

C ウワバミ広場は、フェリーターミナル内の機能がふくらみ出ると共に利用者の滞留空間となります。

D 道路の湾曲と緩やかな起伏によって一種のポシネルフ（歩行者優先のコミュニティ道路）となり、車のスピードを下げます。

春にはオキタンボボの色やにおいに隠岐島を訪れた実感を感じられます。

ポートプラザ

お魚センター

西郷港周辺地区デザイン図
＜西郷港周辺地区デザイン図＞

エリア全体の機能配置図（ゾーニング図）

隠岐の歴史と文化を学習する

A 立面を少しふくらます

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

バス停

景観形成に関する方針

1 建築とインフラが少しふくらむことによって生まれる可能性

A 立面を少しふくらます

臨港道路沿いのわずかな敷地（幅：0.9m～3.1m）を利用して、フェリーターミナル1階を増築し、2、3階にはガラスのキャノピーを掛けて、まちの顔となる西側立面を修景します。

B ロータリーを少しふくらます

臨港道路を含むフェリーターミナル周りの車路を一環の「交通ロータリー」と見なし、それを北側へ少し拡張することによって周辺の自動車動線を整理します。

C 敷地を少しふくらます

臨港道路の道路線形を少し西側に振って、フェリーターミナル前に広場をつくります。

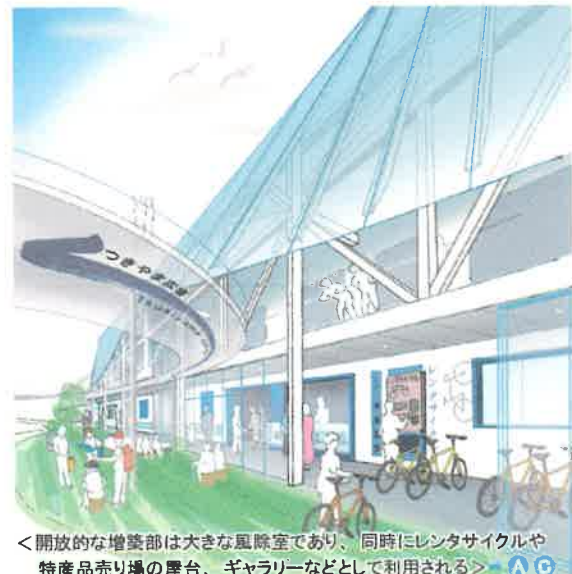
D 地面を少しふくらます

「75cmの安心」。臨港道路と目貫通り入口付近との間を緩い尾根状に盛り土し（最大75cm程度）、西郷公園へと繋がる安全な津波避難ルートを整備します。

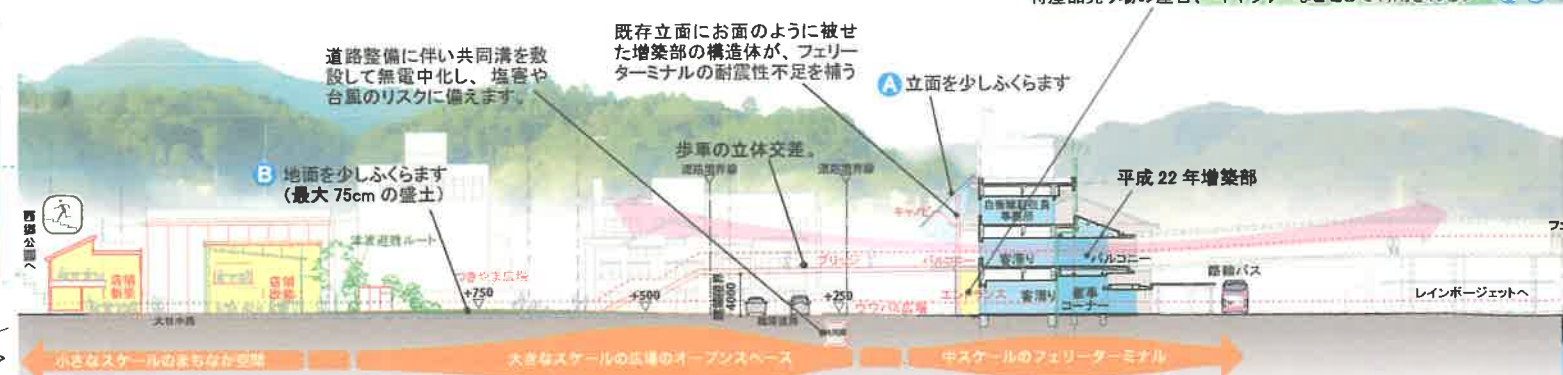
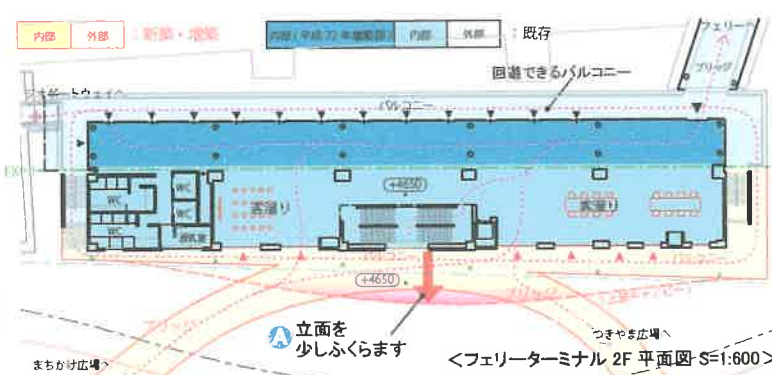
交通機能に関する整備方針

2 細長くふくらむ交通ロータリー → B

- ロータリー外側にあった一般車駐車場をすべてロータリー内側に取り込み、完全な歩車分離を実現します。
- フェリーターミナル東側の駐車帯が伸びることに伴い、路線バスのバス停を設けることが可能になります。
- 島内各方面に向かう路線がロータリーに乗り入れることにより、集約された一箇所のバス停での安全で便利な乗り換えを実現します。
- 狭くて危険な目貫通りのバスの運行を中止することも視野に入れます。



＜開放的な増築部は大きな風除室であり、同時にレンタサイクルや特産品売り場の屋台、ギャラリーなどとして利用される＞ A C



＜大社小路～埠頭間の連続断面図＞フェリーターミナルを挟んで対称的な海側と陸側の構成と動線計画

交流機能に関する整備方針→

-
- <多様な人々が出会うフェリーターミナル2階>

商業機能に関する整備方針⇒

-

鳥獣のクラフトビールある？

タコが居るしてあるよ！

ソウナの浴はマックの心か

またござい

<一皮残った既存の街並みに、増改築による新しいデザインが加わった大社小路>

暮らし機能に関する整備方針

-

観光客、買物客計… 今日はいい事あったから

お祭りやに行くようになったが、

改修してる車の置が かわいいちゃんの 住んでた家 あんなに素敵かったか…

バス路線が変わって 井戸端会館が しやすくなったね。

明日は空地が なんだって！ バスいかいや

オキタンボの 紅葉だっさき！

ちよーしきに あんき市場で 魚と野菜を 買ってこよおかねえ。

かけらがすなら まちかど広場だ。

暮住してきてお気に入りの 町家までついたら、 ご近所さんとあそべる。

空地で車の市 やつちるよ！

お祭りや

井戸端会館

バス路線

オキタンボ

ちよーしき

かけらがす

まちかど広場

暮住

町家

ご近所さん

各機能の連携を深めるための手法に対する提案→

-

整備する施設の利活用や運営に対する提案①

-

phase2

An architectural sketch of a modern building complex. The main building features a large, curved glass facade. In the foreground, there is a wide, green lawn with several small figures of people walking. To the left, there is a smaller structure with a dark roof. The sketch is rendered in a light, hand-drawn style.

新市街の概略

phase 3

An illustration of a person's head in profile, looking towards a large, bright yellow dandelion seed head. To the right of the person is a large green leaf with a prominent vein. Below the leaf is a small dandelion seed head. The background is a light blue sky with a few small white clouds. The text 'phase 3' is written in a blue box at the top left of the illustration.

国道128・140号線の廃止、新しいビル地の建設に

phase 4



その他まちづくりの基本理念の実現のために有効な機能などの提案→

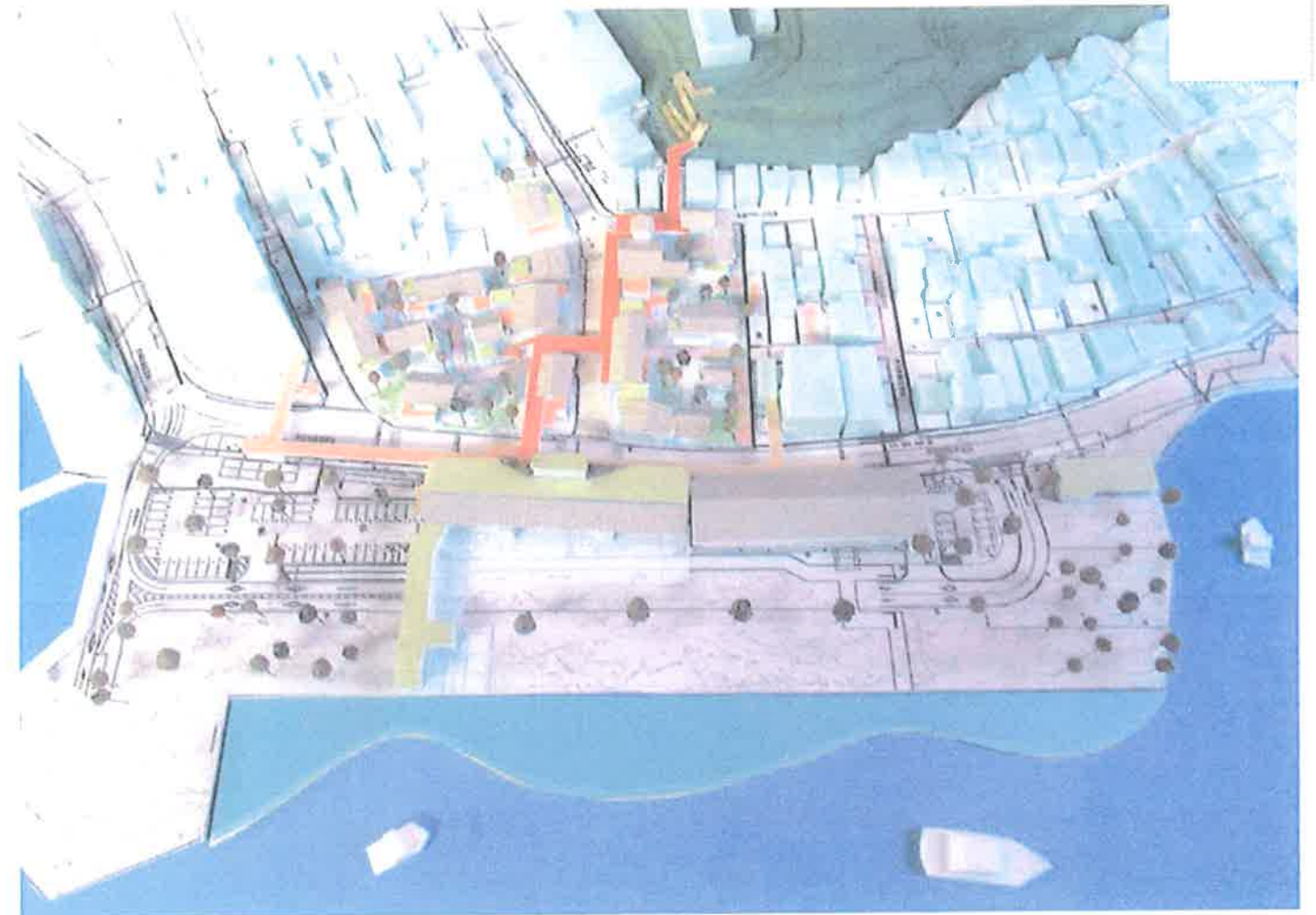
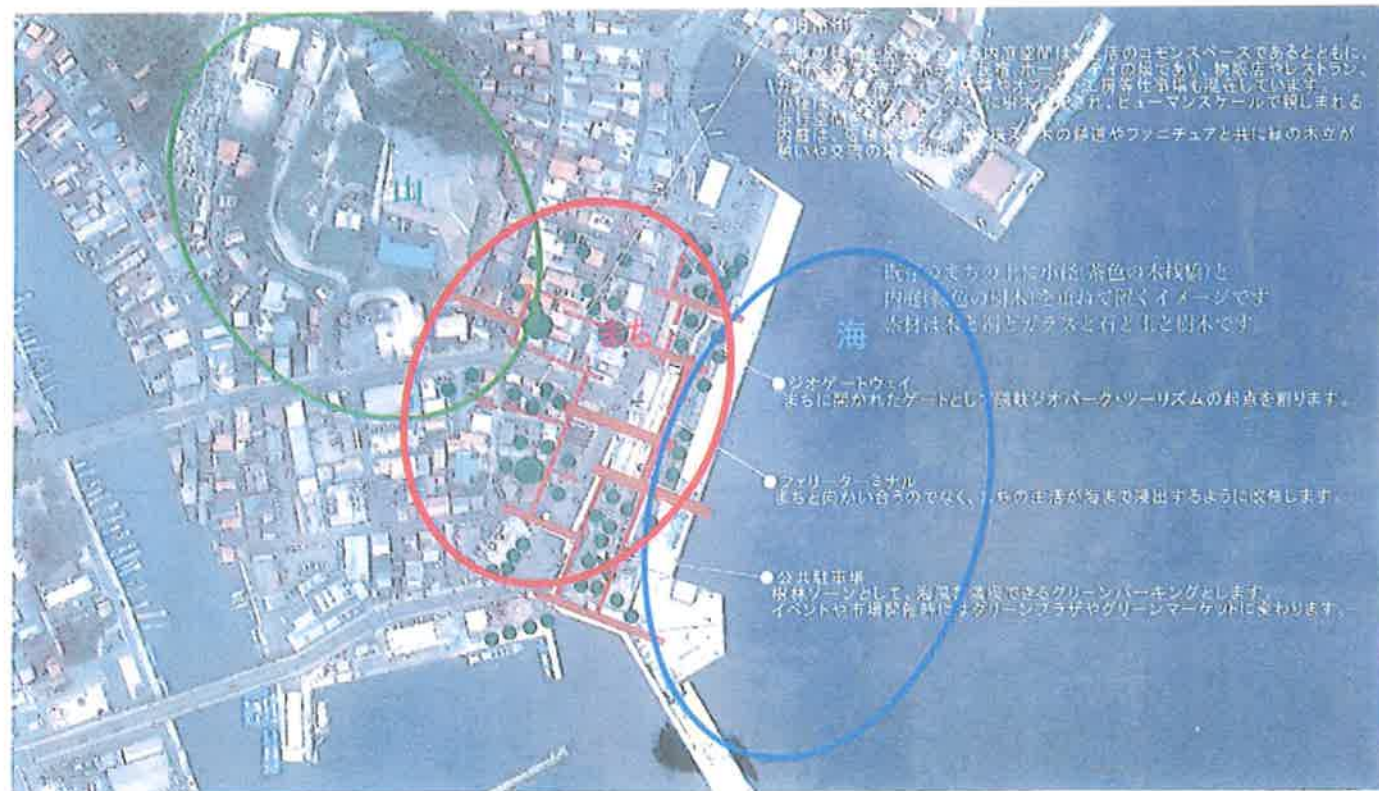
-
- フェリーターミナル
ジョーグートウェイ
中町
ポートプラザ
西郷公園
西町
- 陸土によって新たに生まれる
津波に対して安全なエリア
- 1.0~2.0m 浸水区域
 - 0.5~1.0m 浸水区域
 - 0.3~0.5m 浸水区域
 - 0.0~0.3m 浸水区域
 - 土砂災害警戒区域

バス路線のルート変更により
安全で快適性の高い
地行差動線ネットワークを構築

＜バス路線の再編で広がるまちづくり＞

隠岐のみち(小径)で つなぐ ”三つの縁”

一山の縁(輪) まちの縁(輪) 海の縁(輪)一



設計主旨 三つの縁 一隠岐の小径一

エリア全体の機能配置図(ゾーニング図)
混在する町、自然豊かな原風景に戻す。平面的、機能優先の区分けによる
土地利用計画をやめ、海から山へへと連続するダイナミックな構成とする。

交通機能に関する整備方針
人の流れ(歩車の共存)を主に、対称街区を整備。基本的に国道、海岸道路
等は現状のまま。歩道整備の為に街区の中の町道を建物敷地と一体化する。

交流機能に関する整備方針
島内部の人々の交流と共に、観光客との交流の場となる機会を創り出す。
大量無客より個人客、仲間が頻りに訪れたいくなる仕組みづくりを目指す。

商業機能に関する整備方針
この地域ならではの特化した、現物体験型イベント・飲食・宿泊等サービス、
地元漁業・農業・林業の加工型商業(食事・直売・体験)で整備する。

暮らし機能の整備方針
住む事と、買い物をする場を結合。商店の継承と地産地消を目指し、自作し
使い尽くす事による食品ロスの削減、外部からの若者、定住者を呼込む。

景観形成に関する方針
隠岐造の形態(妻入り、玄関3か所、3つの門、大、小屋根)を取り込む。
自然、地形に合わせた新たな形態を木造を中心に既存建物の再利用を計る。

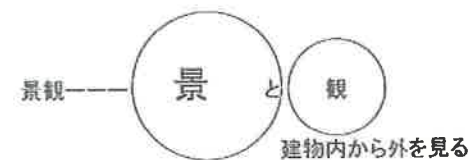
西郷港周辺地区デザイン図
ゾーニングを越えた渾然一体型とし、広く、狭く、高く、低く、明るく、
暗くのリズムを創り出す。地場の染み入る材質に囲まれた空間構成とする。

各機能の連携を深めるための手法に対する提案
既存建物を残し、住みながら、商業をしながら改築。地場産材の本材(スギ)
及び石材を用いて建設し、三つの縁をつなぐダイナミックな構成とする。

整備する施設の活用や運営に関する提案
専門家の意見を聞きながら、現つかのグループ自らが建設に参画。コワーキング
ハウス(食堂の共有)やシェアハウス等の手法を応用し当事者自らが建設に携わる。

にぎわいを創出する手法などの提案
既存建物に住み続け商業を継続して、小径の整備を結ぶ建設を進める。各機
能の技能者を含め多くの人々と建設現場から協働し、賑わいの輪を広げる。

その他まちづくりの基本理念の実現のために有効な機能などの提案
小径は地面レベルでは木製の長道(トイ)で、廊下や洞りのあるスペースは
内庭、テラスで繋がる。長道は上方海に向かう長橋(スロー、ブリッジ)となる。
既存街区と連携施設をつなぐ長橋は車との分所を避け、交流・商業・暮らしの
活気ある活動を生み出す架け橋となる。人々の交流を通して、この地まち特有
の風景を創り出す。



周辺にある隠岐の島独自の自然、風土
潜在地形の再生

景の復権

水辺空間を自然に戻す



八尾川、守屋川の2つの川に
挟まれた地形への尊重

7つのまちづくり指針

- ①用途は純化するのではなく混在化する
- ②活動を分散し、多様な中心を構築する
- ③小さな単位で、様々な活動を持ち込む
- ④シンボリックな中心性を排除する
- ⑤意味と機能が連鎖する多目的な街角を創る
- ⑥プライバシーと共有空間との連続性を演出する
- ⑦低層高密(積層平屋のイメージ)で構成する

住民創造のまちづくり

仲間をつくる——住民参加 から 住民創造へ

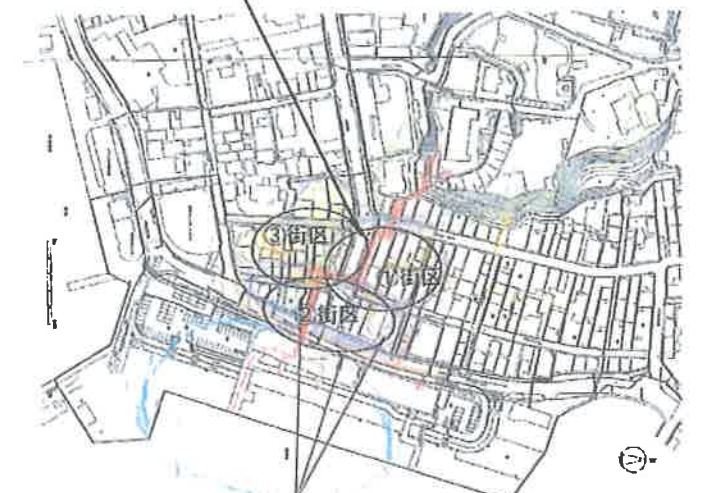
そこに住む人達の主体的決断と協働

道路、敷地、隣地、コミュニティ

——機能的に分断された生活空間を取り戻す

——共生住居の提案(住居、商業施設、緑、駐車場)

〇木製デッキ——海から山へ(山から海へ)の隠岐のみち



基本的に建物の半分はそのまま——減築(敷地に余裕を持たせる)

残り半分は改築し駐車場、植栽を施す(空間の抜けと連携)

住宅、お店の機能分けをしない——共生居住(表、裏空間の混在)

【隠岐の“みち(小径)”づくりの視点】

その1 隠岐のみち(小径)は、島の生活文化の豊かさを改めて認識し、再発見します。

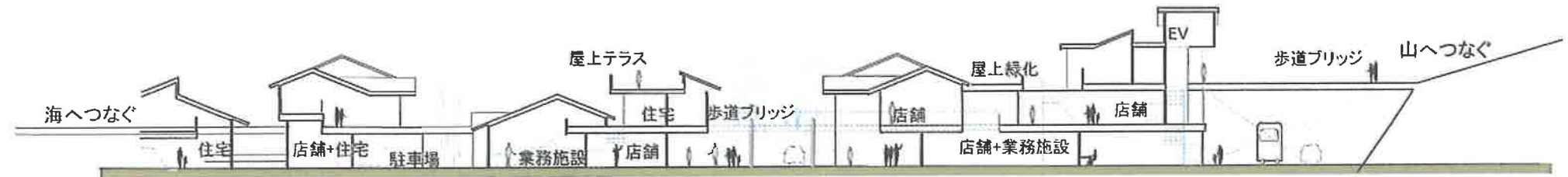
□□島を訪れる人に“海の輪”により島の風土と歴史文化の魅力を伝え、
島に住む人に“まちの輪”により日々の生活に新たな絆を生み出します。

その2 隠岐のみち(小径)は、島に来る人に隠岐の魅力を交流と対話を通して伝えます。

□□フェリーでの来島者に対し機能重視の通過型観光を見直し、市街地内への
導きが可能となるよう、交流と発見が可能な歩行空間として整備します。

その3 隠岐のみち(小径)は、子供、島民の結びつきを強め、いざという時に命を守ります。

□□通常のペDESTリアンデッキのように機能性を優先するのではなく、来島者との
交流と住民同士のふれあいを生み出すみち(小径)として多様な空間演出を行う。



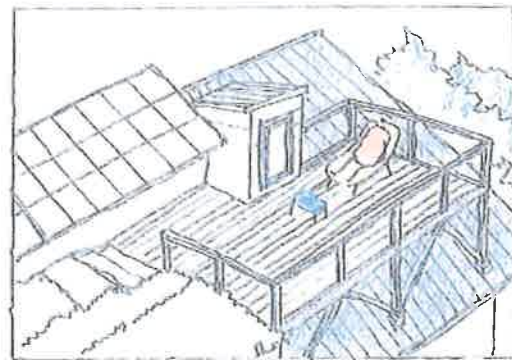
隠岐造の屋根形式を新たな形で展開

断面イメージ

○隠岐造のイメージで街並みを構成

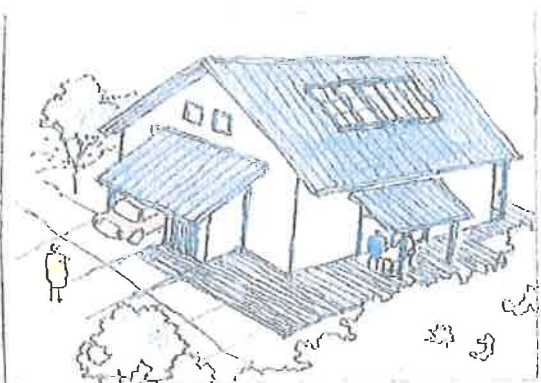
- ・大屋根、+小屋根の組み合わせ
- ・3つの玄関(出入り口)
- ・鍵座の作り

- ・土台が強固——耐震技術(設計)を採用
- ・神社本殿にならう——樹木を取り込む
- ・特殊様式の組合せ——複合、混在



海を臨み、山が見える屋上テラス

太陽光パネル設置、屋上緑化で環境にやさしい家づくり



国道、湾岸道路沿い商店

お酒、郷土特産販売のほか、工房、物作り、郷土料理等

※お店は生活に密着したお店
——自転車修理、レンタル
家具修理、水道ガス工事屋、
建築工事、小規模商品販売等

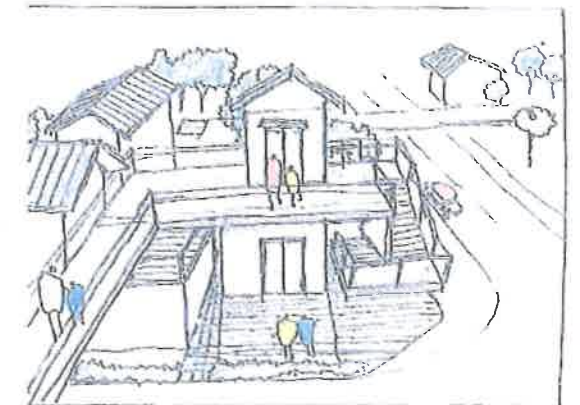
※食を通じた体験
——喫茶店、食堂
共有キッチンで料理教室
畑で当地野菜収穫

フェリーターミナルの2階部分とは、
歩道デッキ(隠岐の径)と繋がる
フェリーターミナルの屋上緑化

将来はジオゲートウェイと繋がる
スカイブリッジとも連動

※軒下空間の活用
——屋根付き半戶外空間で
待合せ、雨宿り、休息
井戸端会議

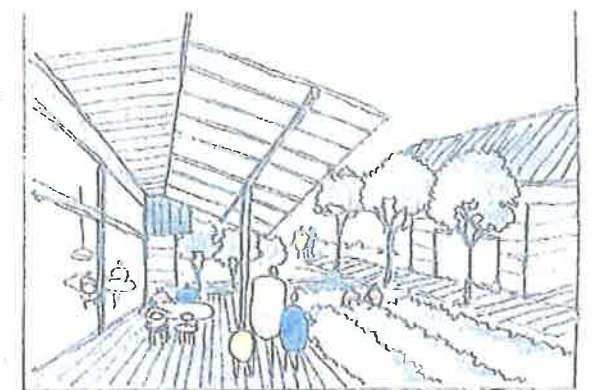
共有キッチン+食堂+菜園
生活の場であり観光客を“もてなす”交流の場ともなる



山から海へ(海から山)へつなげる小径
バリアフリーの観点からエレベーター、スロープを設置



観光客、島民にとっての憩いの場となる温泉
湯治場的長期滞在可能な宿泊施設を併設

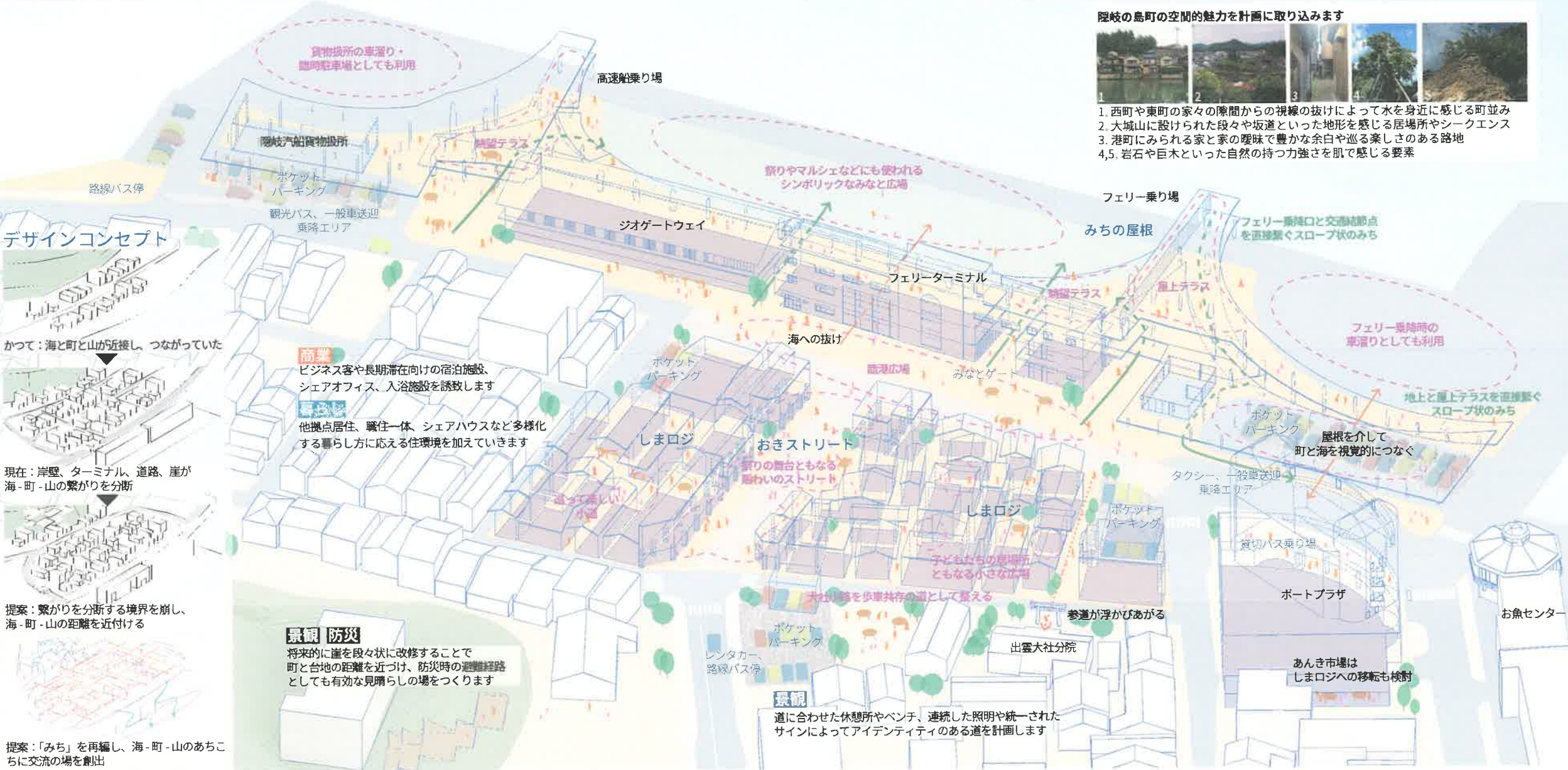


海 - 町 - 台地をつなぐ みちの玄関口

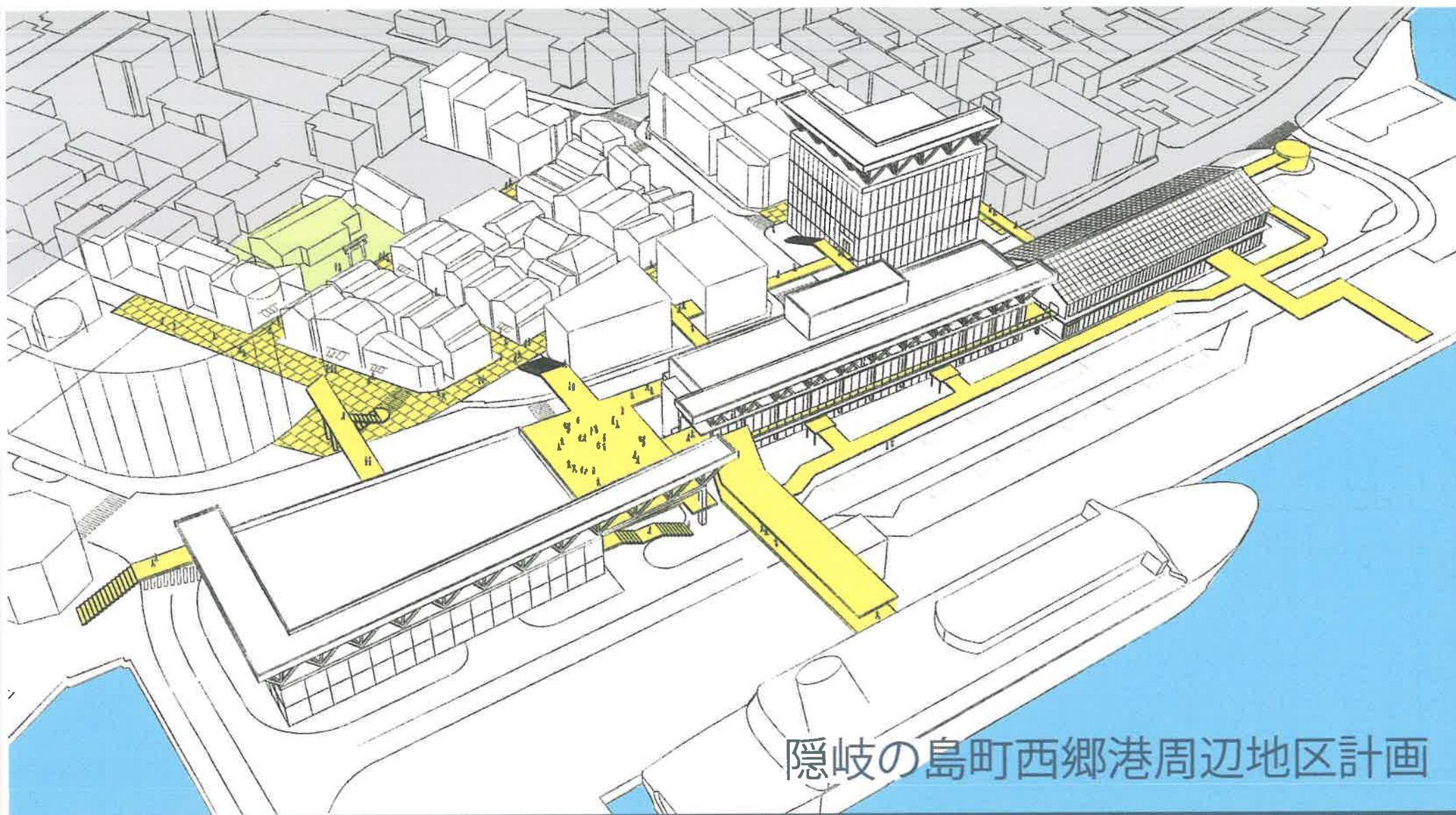
海 - 町 - 台地を分断する境界を崩して相互の距離を近づけ、「みち」を少しずつ再編しながら多様な交流の場とターミナルエリア特有の新しい風景を創出していきます。
漁村の集落構造を参照した本整備計画は、地域の豊かな暮らしを次世代に継承していく未来像を描き、「隠岐の島モデル」として全国のターミナルエリアにも展開しえます。



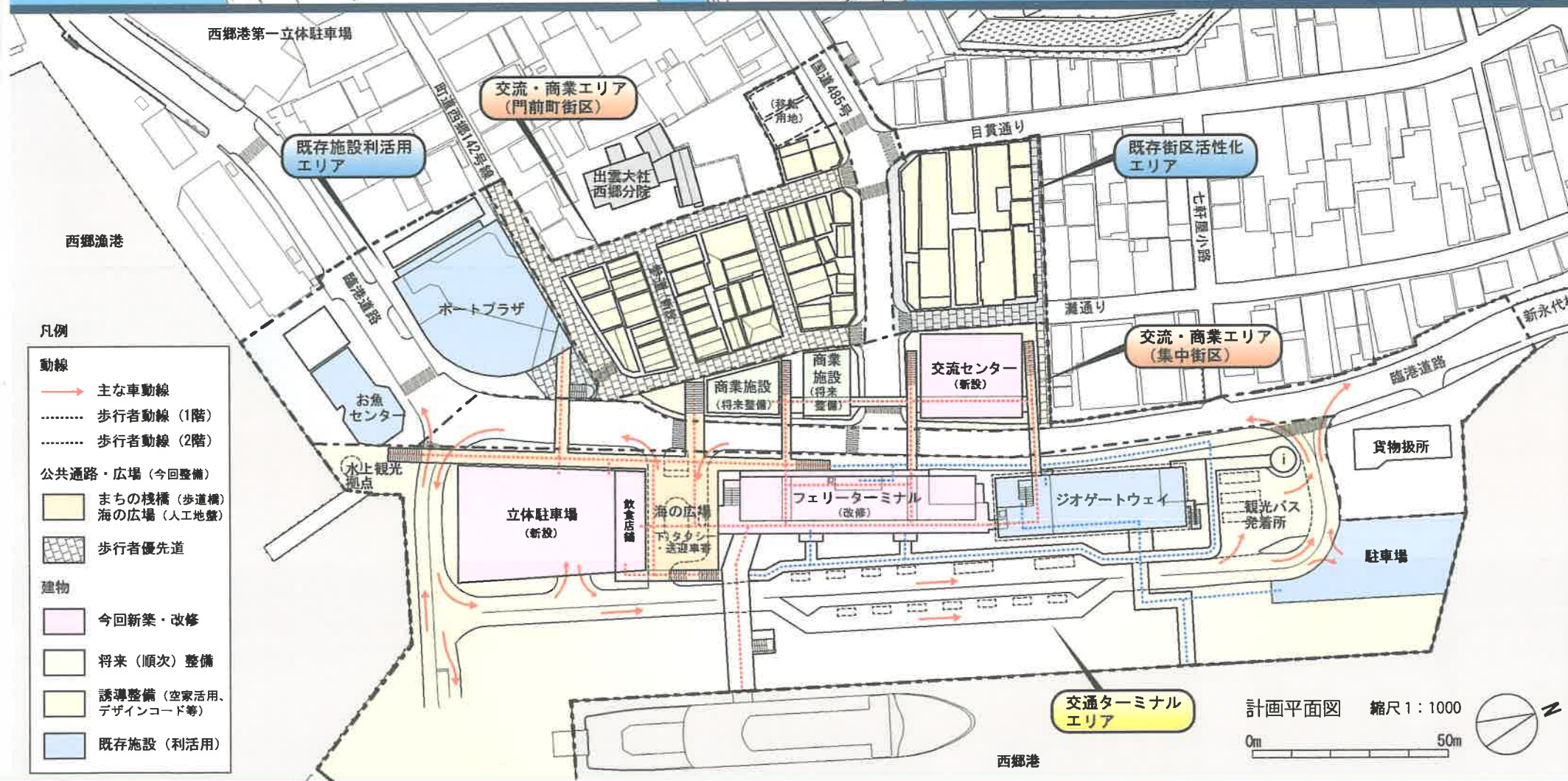
海側では、「みち」のモチーフと隠岐固有の石材を用いて島の顔となる、ここにしかない「みちの風景」を実現します。
海と呼応するおおらかなスケールの構造体の内外に、子どもの遊び場や人の居場所がつくられ、島を訪れる人を迎えます。



- 「みち」に関する6つのビジョン**
- 交通** 先進的な歩者共存道路を更に発展させるべく「みち」の再編を進め、車の利便性を確保しつつ、ターミナル周辺の道路を人に開放していきます。
 - 交流** 「みち」の再編により、居住者や旅行者、世代を超えた多様な交流の場が、町やターミナル建築の屋内外に創出されます。
 - 商業** 居住者や旅行者のための小規模店舗を町やターミナル建築に点在させ、暮らしのなかに親しみ易いスケール感でふれあいのある商業空間が町のあちこちに創出されます。
 - 暮らし** 希望する住人には継続して住み続けてもらいながら整備を進め、次世代に向けて、移動の利便性が確保され、交流空間や商業空間のある「みんなでつくり続ける町」のロードマップを描きます。町の空き家やターミナル建築3階は、宿泊や居住など多様な滞在期間に応える住まいとします。
 - 景観** かつての漁師町などの集落構造を参照して境界を崩し、新たにみちを再編し、島特有の素材を積極的に使用することで、海、ターミナル、町、台地に馴染みつつもまったく新しい景観と、賑わいや交流のある風景が形成されます。
 - 防災** 海と台地を身近に感じることで防災意識を高め、有事に避難しやすいみちと一時避難所を整備します。



隠岐の島町西郷港周辺地区計画



- 凡例
- 動線
- 主な車動線
 - 歩行者動線(1階)
 - 歩行者動線(2階)
- 公共通路・広場(今回整備)
- まちの棧橋(歩道橋)
 - 海の広場(人工地盤)
- 歩行者優先道
- 建物
- 今回新築・改修
 - 将来(順次)整備
 - 誘導整備(空家活用、デザインコード等)
 - 既存施設(利活用)

■計画コンセプト

「交流・にぎわい・安全の創出」をテーマとして、隠岐の島の玄関口としての交通ターミナル機能を充実させながら、ワクワクするような楽しいまちづくりを目指します。

①機能的な交通ターミナルの整備

フェリー、路線バス、タクシー(レンタカー、送迎車)、観光バス、観光船、駐車場などの交通機能を、臨港道路の海側に集約し、相互の連携をとりやすい配置とします。

②まち全体が交流スペース

国道485号と臨港道路の交差点を中心とする街区を「交流・商業エリア(集中街区)」として、シンボルとなる交流センター(本計画で新設)や商業施設(将来計画)を計画します。

③門前町のにぎわい

出雲大社西郷分院のエリアに正面参道を整備し、「交流・商業エリア(門前町街区)」と位置づけて、にぎわいと情緒を感じさせる小規模店舗を誘致します。

④海とまちをつなぐ「まちの棧橋」「海の広場」

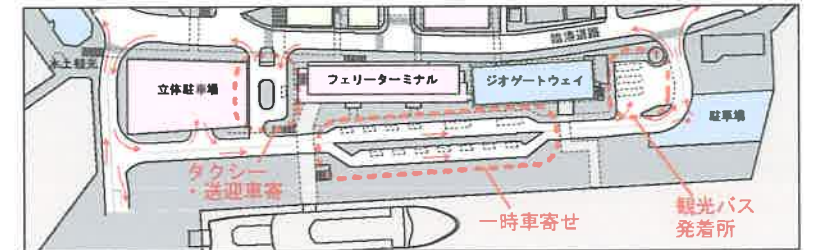
交通ターミナル地区とまちをつなぐ「まちの棧橋」、まちと海をつなぐ「海の広場」を2階(道路上部)レベルに整備して、動線だけでなく風景・感覚的にエリア全体の一体感をつくります。

⑤シンボリックな景観をつくる「海と森の屋根」

新設・改修する交流センター、フェリーターミナル、立体駐車場の頂部に、屋根・庇の構造体として島内産の木材(スギ材)を用いたスペースフレームを設置します。この「海と森の屋根」が隠岐の島を象徴する景観をつくります。

■機能的な交通ターミナルの整備

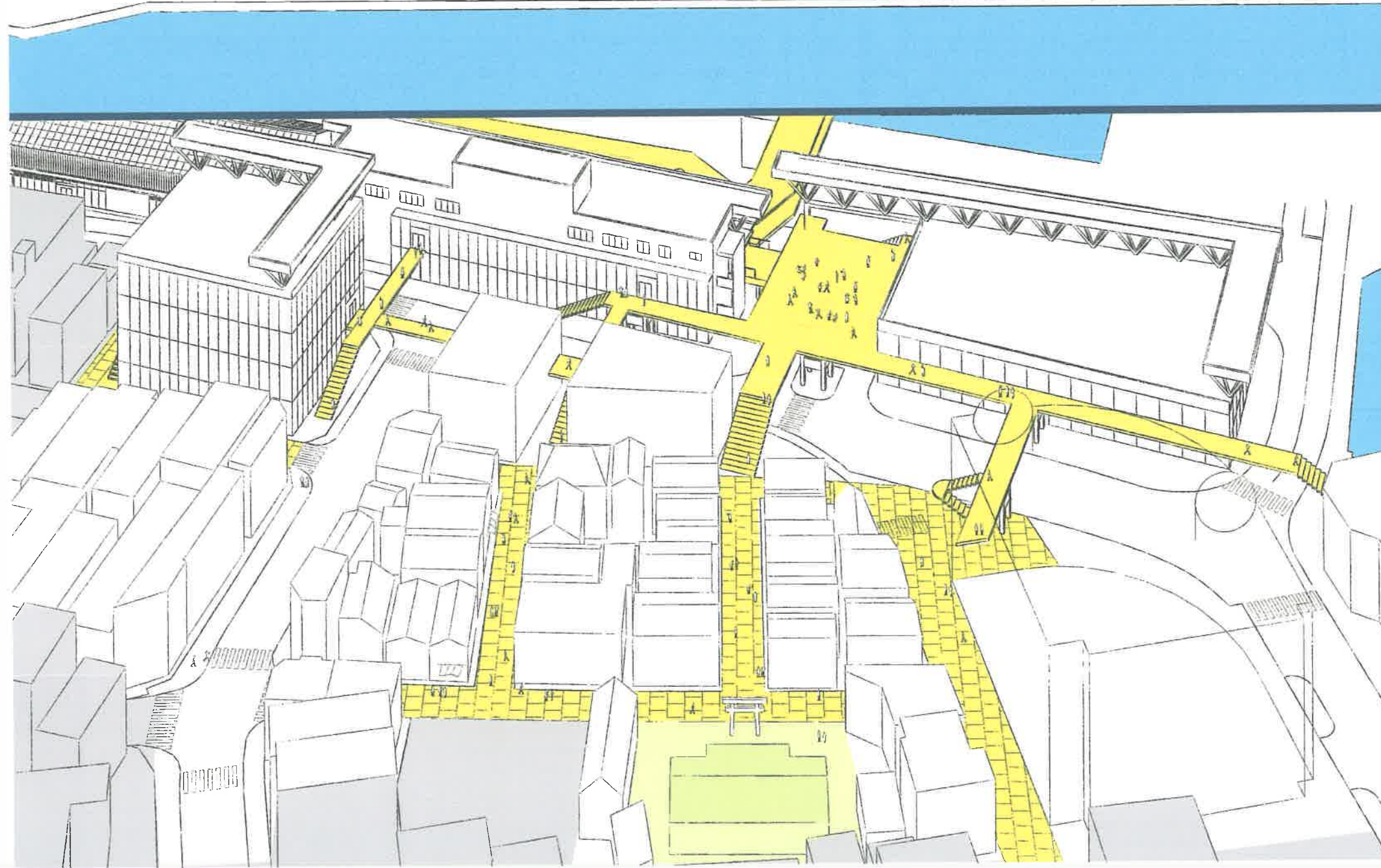
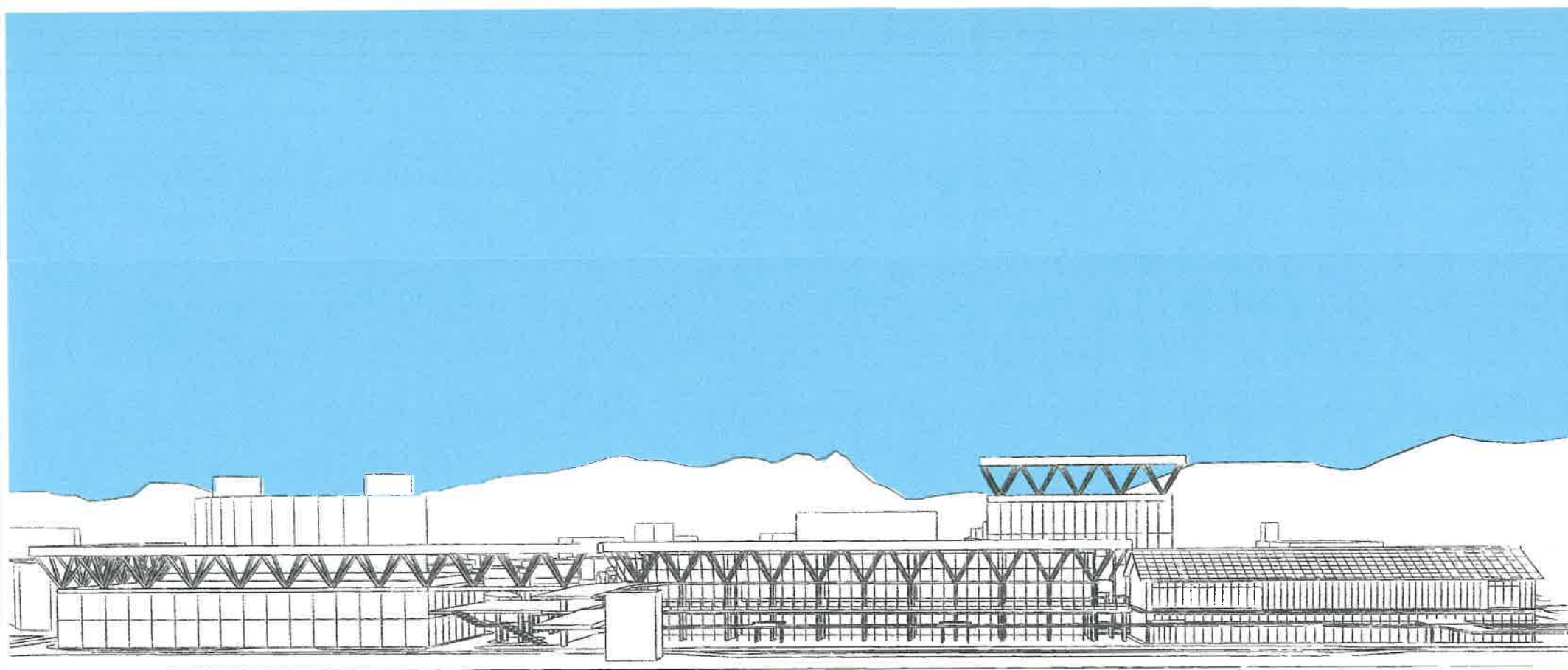
- ・タクシーやレンタカーの乗降場として、フェリーターミナル南側、「海の広場」の下部に小ロータリーを設けます。
- ・その南側に立体駐車場を整備し、駐車キャパシティを充実させます。
- ・ジオゲートウェイの北側に観光バス乗降場を設けます。
- ・「まちの棧橋」の歩行者動線によって、まちなかの路線バスなどの連絡もとやすくなります。
- ・海側の車寄せも全体動線の中で再調整し、ユニバーサルなサイン計画を含めて、スムーズな交通連携を計画します。



■多様性のある商業とくらし

- ・「隠岐の島の豊かな食文化と暖かみのある人の交流」を商業整備のテーマとします。利便性を高めるだけでなく、住み続けることを豊かにするふれあいも残していくことを目標とするため、単に店舗面積を増やすのではなく、さまざまなスケール・質の店舗が併存する、**多様性のある街区**をつくります。
- ・まちに既にある商店は、この地の人々の生活やふれあいと結びついた、人間的スケールの商業施設です、これらは主に「交流・商業エリア(門前町街区)」と「既存街区活性化エリア」において、その暖かみのあるまちづくりを担います。
- ・「交流・商業エリア(集中街区)」には、ある程度の規模の商業・飲食店や交流施設を誘致し、地域の利便性向上に加えて、多くの観光客などにも対応できるようにします。





■まち全体が交流スペース

- ・「**交流センター**」は計画全体のシンボルともなる建物です。1～2階には観光案内所、展示施設、カフェなどの店舗、3階～4階には交流ラウンジ、図書館、展望レストラン、屋上には展望スペースを設けます。
- ・ただし交流機能は一箇所に集約されるものではなく、「まち全体が交流スペース」と考えます。既存のポートプラザとの連携、エリア内の建物のリノベーション活用などによって、地元の人々、観光客、帰省客、ビジネス客、それぞれがこの地に住むように過すことができるさまざまな交流スペースを分散させてつくり、くつろぎとにぎわいを創出します。

■「海の広場」「まちの棧橋」

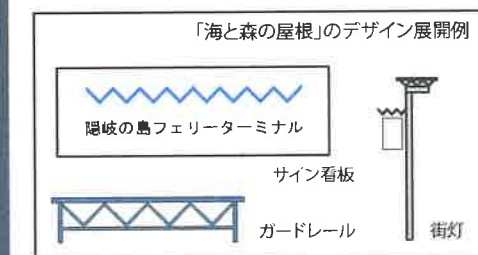
- ・「海」は、このまちにおける人々の交流、外部に開かれたおおらかなふれあいを象徴します。まちと海の景観と意識をつなげるため、フェリーターミナルの外壁改修に加えて、「**海の広場**」と「**まちの棧橋**」を計画します。
- ・「**海の広場**」はまちと海をつなぐスペースであり、さまざまなイベントの開催によって、まちの活気ある交流をつくります。お祭りにも相応しい舞台となります。
- ・「**まちの棧橋**」は交通ターミナルエリアから道路を渡るだけでなく、街区の中へと歩行動線を導くことで、まち・人・海のつながりを強くするとともに、より広いエリアへの移動も促します。

■景観：「海と森の屋根」のデザイン・モチーフ

- ・隠岐の島の「顔」となるデザイン・モチーフとして、「海と森の屋根」を提案します。これは海の波、森の木々の枝の広がり、そして島のくらしを象徴する家形を融合させたモチーフです。交流センター、フェリーターミナル、立体駐車場の頂部には、屋根・庇の構造体として島内産の木材（スギ材）を用いたスペースフレームが設けられ、このモチーフを象徴的に表現します。
- ・サイン計画、ガードレール、街灯などにもこのデザイン・モチーフを展開し、隠岐の島のイメージを担うものとします。

■景観：門前町の人間味ある雰囲気づくり

- ・出雲大社西郷分院の門前街区に「参道」を新設し、その周囲の街区には切妻屋根、瓦、しっくいを中心としたデザイン・コード（誘導基準）を設けて、風情のある景観をつくります。

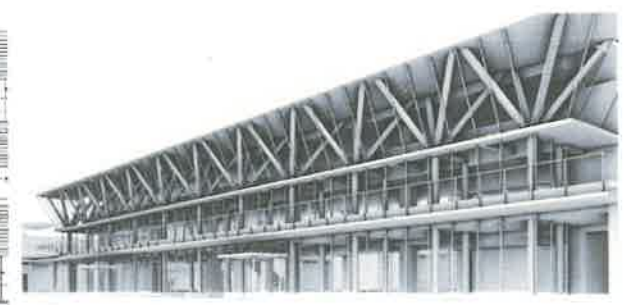
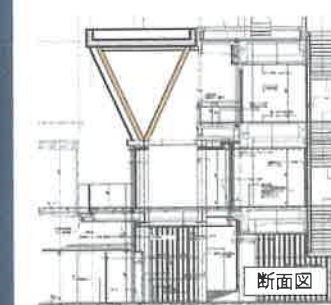


■フェリーターミナルの外観改修

- ・海側については、鉄骨造増築部分を再改修し、上部に、島内産のスギを用いた木質スペースフレームによる屋根（「海と森の屋根」）を設けます。これによって、海側の2階デッキ通路、待合いスペースが明るく開放的になり、また3階との視覚的な連携もとれます。
- ・まち側の外壁を改修し、透明性を高めて、海とつながる景観をつくります。

■災害に強い、持続性のあるまちづくり

- ・上記の改修にあたり、既存建物の耐震性調査を行い、安全な強度を確保する計画とします。
- ・新設の立体駐車場、交流センターも十分な強度とし、また機械室を上階に設け、各施設で共有する非常用電源、備蓄倉庫を備えるなど、災害に強い建物とします。
- ・ソーラーパネル・大容量蓄電池を設け、環境だけでなく、災害時の対応にも配慮します。



みんなが集う「まあるい」広場

昔から多様な動植物を育んだ環境。流刑された人々を家族同様に受け入れた寛容性。人の唇に耳を傾け対話する人の和。隠岐の島にはこれからの時代に重要な多様性と寛容性があります。

私たちはこの和の心。多様なものを包み込む寛容性。まあるい島の形にインスピレーションを得て、みんなが集まり対話するまあるい広場、まあるい新たなランドマークとなる建築を中心に西郷港周辺のグランドデザインをご提案します。



隠岐の島という家の玄関口・西郷港

西郷港は本州や西ノ島町、海士町、知夫村を結ぶ交通・交流の結節点です。様々な人が西郷港に訪れ、そして西郷港から旅立ちます。隠岐の島を1つの家に例えると、海やボーディングブリッジはアプローチ空間、西郷港は玄関にあたります。フェリーターミナルを含む西郷港周辺はまちのリビングです。この場所を通じて、隠岐の島という大きな1つの家を巡ることになります。

この家の原点となる玄関口に盛土を行い、求心性の高い古墳のような「まあるい広場」を配置します。ここはどこからも見え、周りの全てが見渡せる場所です。海が見え、神社が見え、まちが見え、隠岐の島の風景を感じます。夏至や冬至の日の出、中秋の名月が見える大地を感じる場所でもあります。風景や大地を感じながら、隠岐の島に訪れ、隠岐の島から旅立つ、古来より隠岐の島を往来した人が体験した感動をより強いものにしたいと考えています。

交流拠点「まめなかの」、みんなで話すまちづくり

島の人々の意見に広く耳をかけたわけ、計画・設計を進めます。計画・設計の間、地域拠点「まめなかの」を設置し、いつでも誰でも立ち寄って思いを伝えることができ、まちへの想いや未来の展望について直接語り合える場をつくり出します。この場は、工事中も場所を変えてまちに残り、まちの持続可能なコミュニティの形成に寄与します。より多くの島民の方の意見を聞くために、「まめなかの」を中心としてオープンハウス（屋外での意見交換の場）を開催すること、多様な世代の意見交換、情報交換を行います。

事業の実現に向けた支援

本事業を実現するためには、様々な制度を使っていく必要があります。本事業は「都市再生整備計画事業」として計画することで円滑な事業推進が可能となると考えます。当提案は、都市再生整備計画の策定等について多数の実績とノウハウがあり、実務的な支援が可能です。また、賑わいづくり（道路等オープンカフェや民間建物との一体的活用）のためには道路占用許可における都市再生整備計画特例を活用するなどの賑わいづくりを実現する制度の裏付けづくりなども支援いたします。

事業を進めるための3つの「つくる」

- ① しっかりと計画をつくる
本事業は広い敷地・複雑なステップ・法制度の活用等、難易度が高いプロジェクトです。私たちは三陸の復興などの経験も豊富なメンバーで構成し、これまでの知見を活用した各種法制度に基づく行政手続き等の必要期間を確実に抑え、遅延しないように事業スケジュールをしっかりと進めていきます。
- ② 共につくる
本事業は長い年月にわたる事業であるため、私たちは計画・設計の当初から現地拠点をつくり、地域の方々と対話しながら設計を進めます。また、地元の方々の協力や生活や生業の持続が重要だと考えているため、早期に1棟目の建築を建設し、敷地内で住み替えが可能な計画とします。1棟目にはまちづくり拠点をつくり、その後の設計・工事に近く関わります。
- ③ 使いながらつくる
長期に渡る工事が必要となりますが、作っている間に何をするかを重要だと考えています。道路の付け替え完了後は広場空間となる場所が生れるため、これらの空間を利用して、賑わいや高校生や職人のチャレンジの場として社会実験やイベントなどの仕掛けを実施します。使いながら、設計内容を改善する「使いながらつくる」を実践します。

土木・建築・ランドスケープ専門家集団による対話を重ねる実施体制



スケジュール/工事ステップ図

私たちは出来るだけ過程も大切にします

	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
計画・設計	基本計画	基本設計	実施設計	監理			実施		監理			
工事	測量			第一期工事			第二期工事					
手探等 (区画整理の場合)		事業手法検討	都市計画決定	事業計画	換地設計	仮換地						
補償等		計画案の説明	境界測量	家屋調査	補償協議							
デザイン会議												



国道 485 号および臨港道路は付替えを行い、フェリーターミナル前に広場を創出します。付替えた道路の中でも臨港道路は各施設との連携や賑わい創出を行うため、フルフラットで車道と歩道の連続も統一した歩車共存道路とします。

人中心の歩車共存道路

交通機能

広場に面した場所に乗り換え機能を配置しバスやタクシー、送迎車などへの容易な乗り換えを可能とします。駐車場は敷地北側に準約配置し、ブリッジで繋ぐことで、フェリーターミナル周辺の広場空間を人中心の場所とします。

外と中も使えるまちのリビング

交流機能

フェリーターミナルやまあるい広場を中心に交流機能を配置します。フェリーターミナルは減築を行い、テラス状の半屋外空間を創出します。屋外と屋内の空間が一体となることで、広く多様な居場所をつくり出します。気候の良い時は屋外で、日陰が欲しい時は半屋外のテラスで、雨の日や風の強い日は屋内で、その日の気候や気分、暮らしや学習など異なる使い方で場所を選ぶことができます。お祭りやイベント時には大規模な場所としても機能します。

多塔がつくるまちのシンボル

景観形成

隅島の島に訪れる、旅立つときに見える景観が最も重要であると考えています。島に訪れた時の期待感、島を出ていくときの帰郷感を醸成する景観として、フェリーターミナルや新しく建築される建物にリング状のまあるいテラスをつくり、多塔の景観はまちの新たなシンボルとします。

まあるい丘からは海の軸、出雲大社分府の軸（歴史軸）、自然を体験できる夏・冬の日の出の軸（地軸）を配置し、印象的な景観を生み出します。

持続的な体制

利活用や運営

ターミナルを中心としたエリアマネジメント等の官民連携手法を検討します。持続的運営の実現には、特に地元人材の関わりが重要と考えるため、臨岐観光協会や地域連携 DMO に登録された（一社）臨岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会との連携を軸とした、地元主体の運営体制構築を目指します。また、本事業のなかで作る地域拠点「まめなかの」やワークショップ等を通して人材発掘に向けた後方支援を行います。

大きな賑わいと小さな賑わい

にぎわい演出

お祭りやイベント時は臨港道路や国道 485 号全体を使って、大きな賑わいを創出することが可能です。交流機能の中心となるフェリーターミナルやまあるい広場は、イベント時のテラス空間・観覧席としてにぎわいに貢献します。また、臨港道路周辺は、人中心の歩きやすい空間とするともに 1 階に商業機能を配置して道路を挟み込むことで、沿道の賑わい景観を創出します。

歩車共存道路の眺め

フェリーターミナル



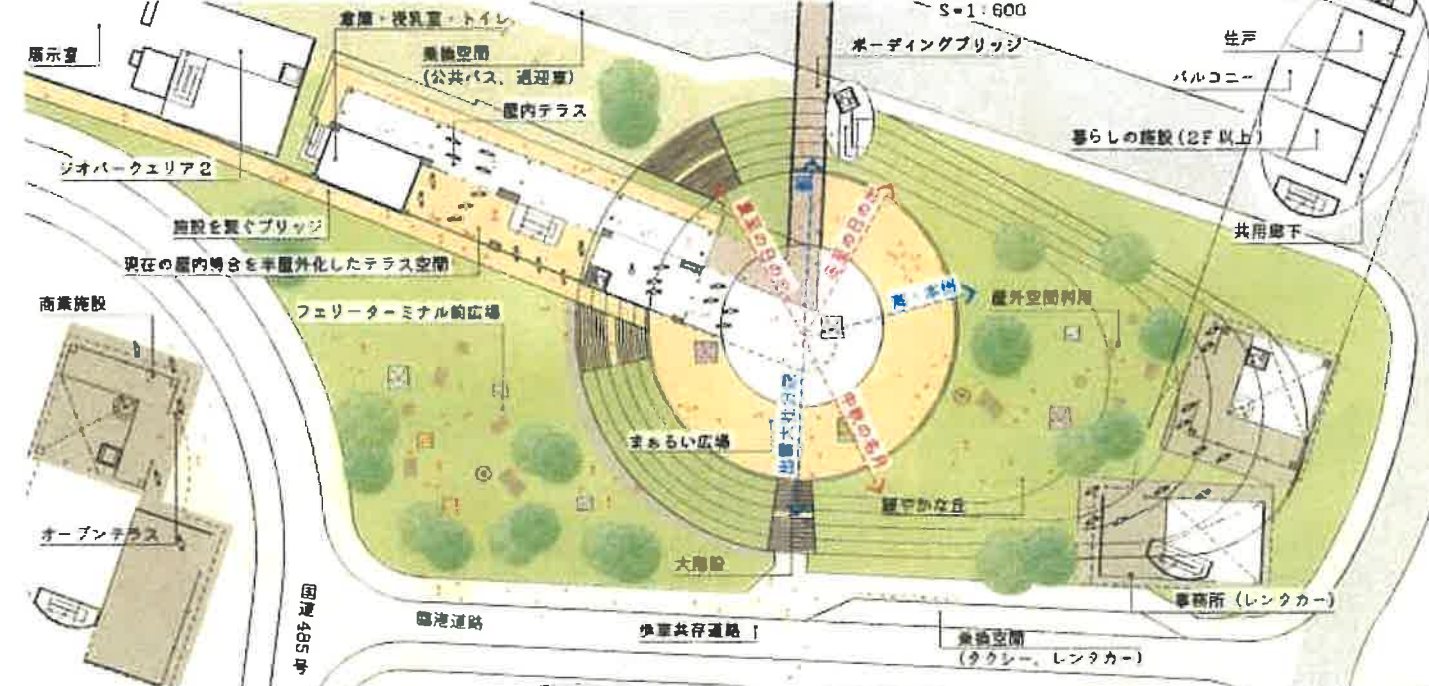
全体機能配置図 S=1:1000

※住戸は要求水準の 1.3 倍
※移住者向け新築住宅の調整が可能

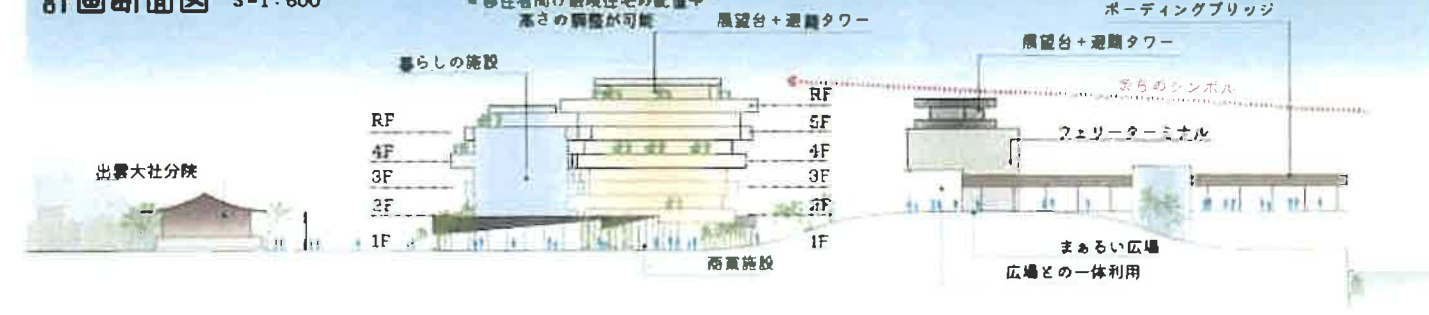


ジオゲートウェイ / フェリーターミナル 2 階～GL レベル 平面図

基準階 平面図



計画断面図 S=1:600



賑わいの波及

商業機能は新たに配置される建築の 1 階に配置します。現況よりも幅広く取られた歩道や歩車共存道となる道路と一体になり、屋外も使って賑わいができるようになります。商業の賑わいを屋内にとどめるのではなく、屋外へ、周辺へ見せていくことで、港町や中町、東町などの周辺地区への波及効果を生み出します。敷地の中で、商業を分散配置することで、他の施設との連携を図り、エリアの回遊性を促します。

海が見える暮らし

暮らし機能は商業機能等に隣接した 2 階以上への配置を基本とし、海への眺望と防災性の高い住戸配置とします。商いをしながら暮らす方々の住宅として食住近接の住居やプライバシーの高い住居となります。また、移住者の受け入れ先としても機能することで、臨岐の島町の人口減少に歯止めをかける役割を担い、新旧移住者の交流の場となることを目指します。これらの暮らしの機能は空いているスペースにも展開可能です。

施設への視認性を向上する広場

まあるい広場に登れば、フェリーターミナル、海やその先の本州、出雲大社の分府、ビューポートホテル、再配置された商業施設などが一帯に見ることができると見えます。フェリーターミナルの 2 階に直接接続されたこの場所は、フェリーで到着した方もまずこの丘にアクセスするため、視認性や期待感が高い場所となります。ここにくれば全てが見える原点のような場所となります。

防災 避難タワーと盛土による防災

対象地では津波浸水 1~2 m が想定されています。しかし、一時避難場所である西郷公園や大城山へのアクセスは容易ではありません。敷地内で一時避難が可能となるように、新たに建築する場所は 2 階以上の場所を多くつくり、多くの人が高い場所へ避難が可能な場所とします。また、フェリーターミナル南側に創出する丘そのものが避難場所、避難経路にもなり、誰もがたぐひに分かりやすく避難可能な計画とします。

その他 SDGs の実現

これからも住み続けられる臨岐の島であるために、SDGs の実現を目指します。具体的には、臨岐の島の人々がすでに持っている誰でも受け入れ、対話することができる優しい気持が、より発展的になるために、車座のように集まれるまあるい広場を配置し対話を促す空間を実現します。また、新築される建築やブリッジには太陽光発電を配置し、クリーンなエネルギー循環を創出します。

参道の眺め



「町」をつなぐ

[その他の提案 + にぎわいを演出する手法]



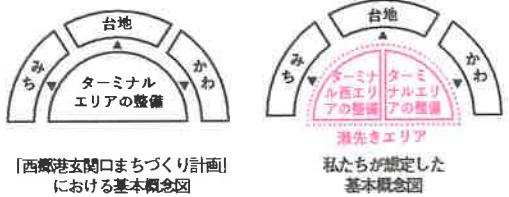
1920年の西郷町：瀬先きエリアの南方向の町割
『日本海に浮かぶふるさとアルバム西郷』より



瀬先きエリアの
東西動線が弱いまま

中町と西町のあいだを走る国道485号(風待ち街道)は幕末まで陣屋前に横が置かれ、一般市民の自由な通行が許されてい

この歴史的弱点を解消していくには、まちをつなげる重要エリアとして「瀬先きエリア」を捉える視点が必要です。「西郷港玄関口まちづくり計画」が目標とする「みち、かわ、台地がつながり、玄関口地域が活性化する」の実現に向け、ターミナルエリアだけではなく、その西エリアも一網に考える必要があると私たちは考えます。



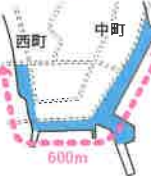
「西郷港玄関口まちづくり計画」
における基本概念図

● 長期的な構想



① 海のプロムナードの構想

現状の港には海に近づくことができる空間がありません。中町から港へ、港から西町へと続く、海の景色が爽快な600mのプロムナードを整備します。



② みち受け広場とオリエンタル横丁

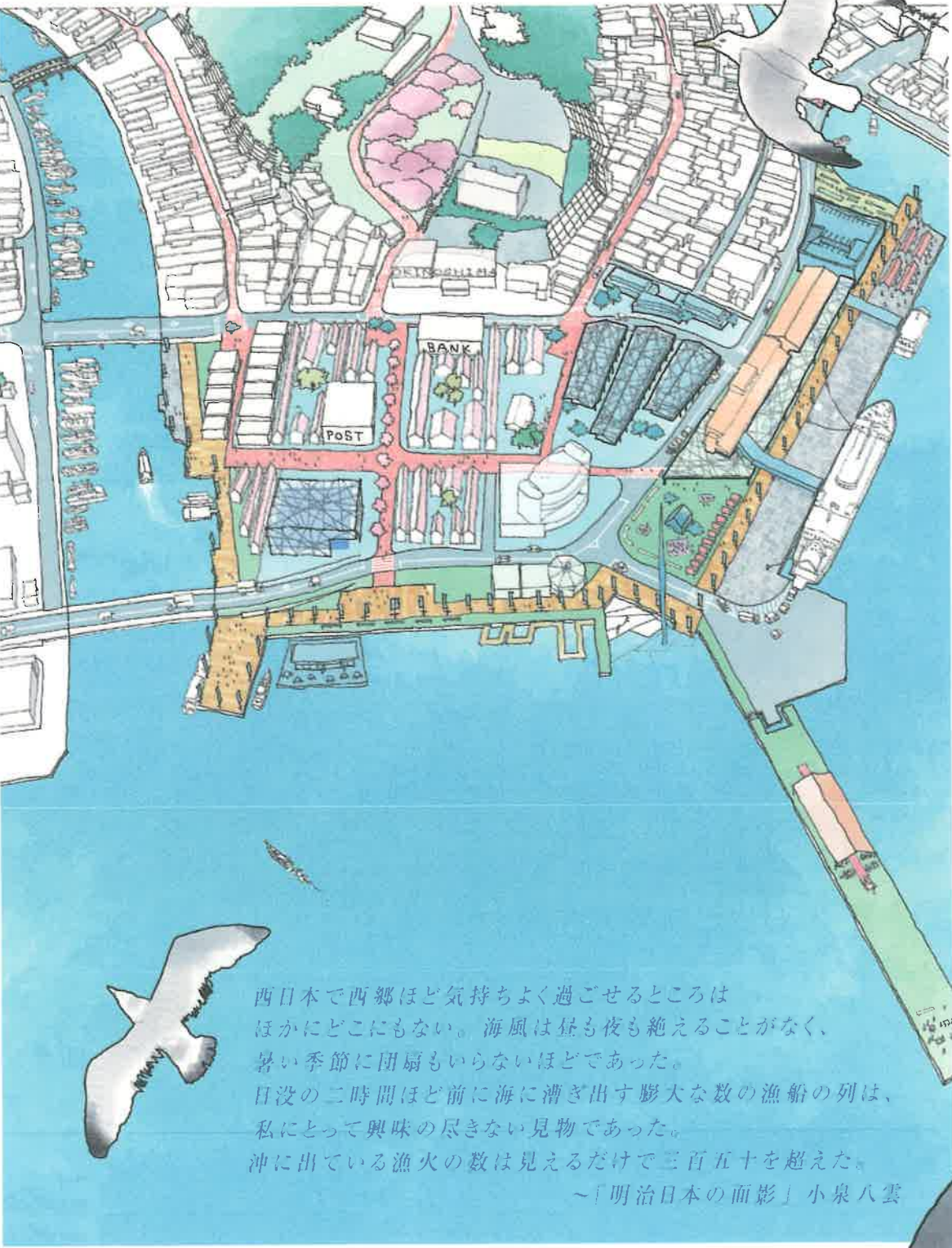
オリエンタル横丁をメインの東西軸とする小路ネットワークをつくります。目貫通りと西町通りの終端にアイストップとなるみち受け広場をつくり、小路ネットワークに人々を誘います。



③ 陣屋通りと海の広場

小路ネットワークの南北軸として陣屋通りをつくり、その先端に間口を見渡す海の広場を設けます。陣屋通りは歴史の軸でもあり、景観の軸でもあり、まちと台地をつなぐ防災の軸でもあります。

● 長期計画のイメージ [西郷港周辺地区デザイン図]



西日本で西郷ほど気持ちよく過ごせるところはほかにどこにもない。海風は昼も夜も絶えることがなく、暑い季節に団扇もいらなほどであった。日没の二時間ほど前に海に漕ぎ出す膨大な数の漁船の列は、私にとって興味の尽きない見物であった。沖に出ている漁火の数は見えるだけで三百五十を超えた。
～「明治日本の面影」小泉八雲

景観をつなぐ

[景観形成の方針]

● 視点場のネットワーク

エリアからは、船が発着する西郷湾の景観、島後の玄関である間口の景観、漁船がならぶ八尾川の景観をそのまことができます。これらの景観を最大限に楽しめるよう、道路の向きの調整、眺望の遮蔽となる建築物の減築を行い、居心地の良い視点場としてネットワーク化します。西郷湾への眺望を遮っているフェリーターミナルについては、隣部分のリノベーションにより眺望を確保します。



● 美しい夜景の創出

海のプロムナードの照明ボール、温もりを感じさせる小路の灯り、漁網をモチーフにした建築などにより、美しい夜景を創出します。小泉八雲が西郷湾の夜を見物と評したように、西郷ならではの夜景は訪問者の心に強く刻まれるでしょう。



「待ち」をつなぐ

[交通機能に関する整備方針
+ 各機能の連携を深めるための手法 + にぎわいを演出する手法]

● 「待つこと」の豊かさ

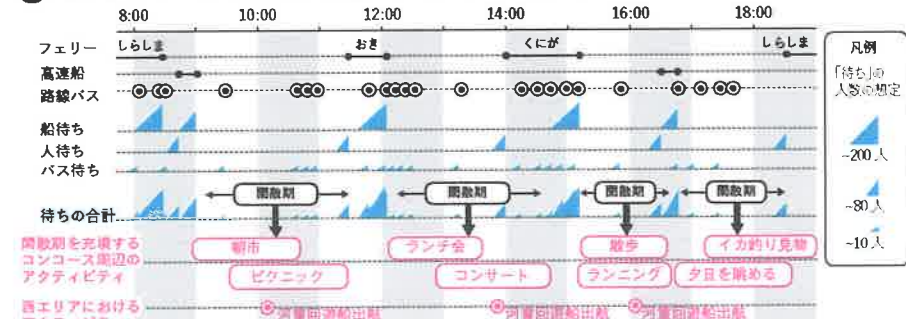


リオン駅 ©eltpics@flickr



ターミナルは、さまざまな人が一堂に会する「待ち」の空間です。出会いと別れ。物思いやとりとめもない「待ち」の空間を可能な限りターミナルの1階に一体化することで、便利であると同時に、人の豊かさは、本来的に豊かな建築であるはず。私たちは、ビ

● 「アクティビティの譜」を用いた にぎわいの演出



乗り込む船を待つ人(船待ち)、降りてくる人を迎える人(人待ち)、バスを待つ人(バス待ち)の増減を時刻表に合わせて並べ、合計すると、ターミナルが機能する時間帯が4回あることが分かります。「待ち」の空間を1階に一体化し、その近傍に適切なアクティビティを配することで、船を早めから待ったり、人を迎えた後も残った

● 「待ち」とアクティビティが混ざり合うコンコース

観光案内所、高速船乗り場、降車ゾーン、駐車場など、ターミナルが提供する機能間の移動は、現在は外部の底によって行われています。ターミナル内部の車道を廃止することで、この動線を空間的な移りのあるコンコースに変え、搭乗ゲートの前に「待ち」とアクティビティが配される空間のコンコースのように、分けやすく、快適で、眺望が楽しめる空間とします。コンコースは半屋外の空間を基本としつつ、ターミナルおよびジョゲートウェイの1階と連続する内部空間としての実現も検討し

交通をつなぐ

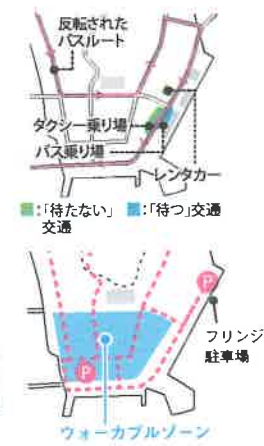
[交通機能に関する整備方針]

● 「待つ」交通と「待たない」交通の最適配置

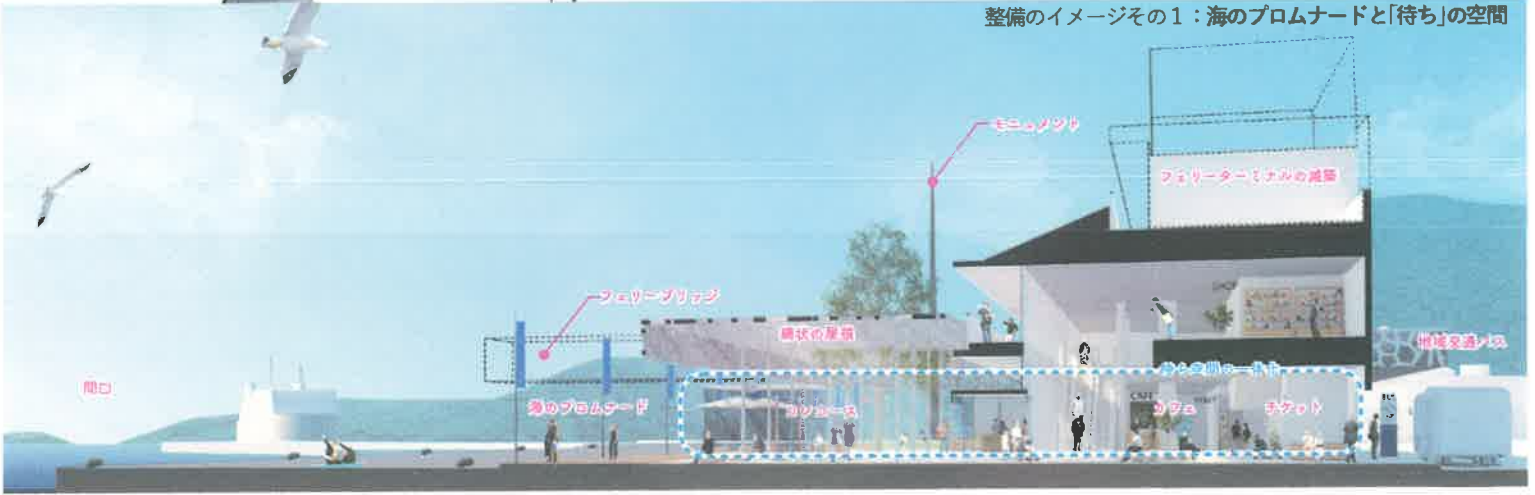
「待ち」の空間の一体化に向け、「待ち」が発生するバス乗り場が前面道路のターミナル側に来るよう、現在のバスルートの反転を検討します。「待ち」が発生しないタクシー乗り場とレンタカー店は信号を渡った中町側に配し、特に観光客の多いレンタカー店は直売所と隣接させて相乗効果をはかります。バスルートの反転が叶わない場合は、タクシーの乗り場とバス乗り場の位置を入れ替えます。

● ウォークブルゾーンの設定とフリンジ駐車場の整備

コンコースの北端に指定式立体駐車場を整備し、前面道路からの入場とすることでターミナル東側の車道を廃止します。この駐車場とターミナル西エリアの町営駐車場をフリンジ駐車場として活用することで、瀬先きエリアのウォークブルゾーンをはかり、楽しく安心して歩ける小路ネットワークを実現します。



整備のイメージその1：海のプロムナードと「待ち」の空間



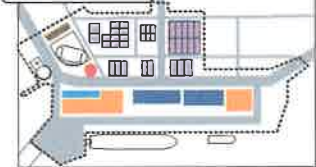
夢をつなぐ

〔西郷港周辺地区デザイン図〕〔エリア全体の機能配置図〕

ターミナルエリアの再生は、明治の埋め立て以来の大きなまちづくりの機会です。みち、かわ、台地がつながる将来のために、町の皆さんとたくさんの議論を重ね、夢あふれる西郷の暮らし、商業、交流のヴィジョンをつくっていきます。

●工区・工期計画

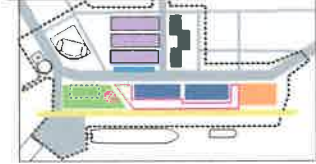
R4：基本計画



R10：一期工事後



R15：二期工事後



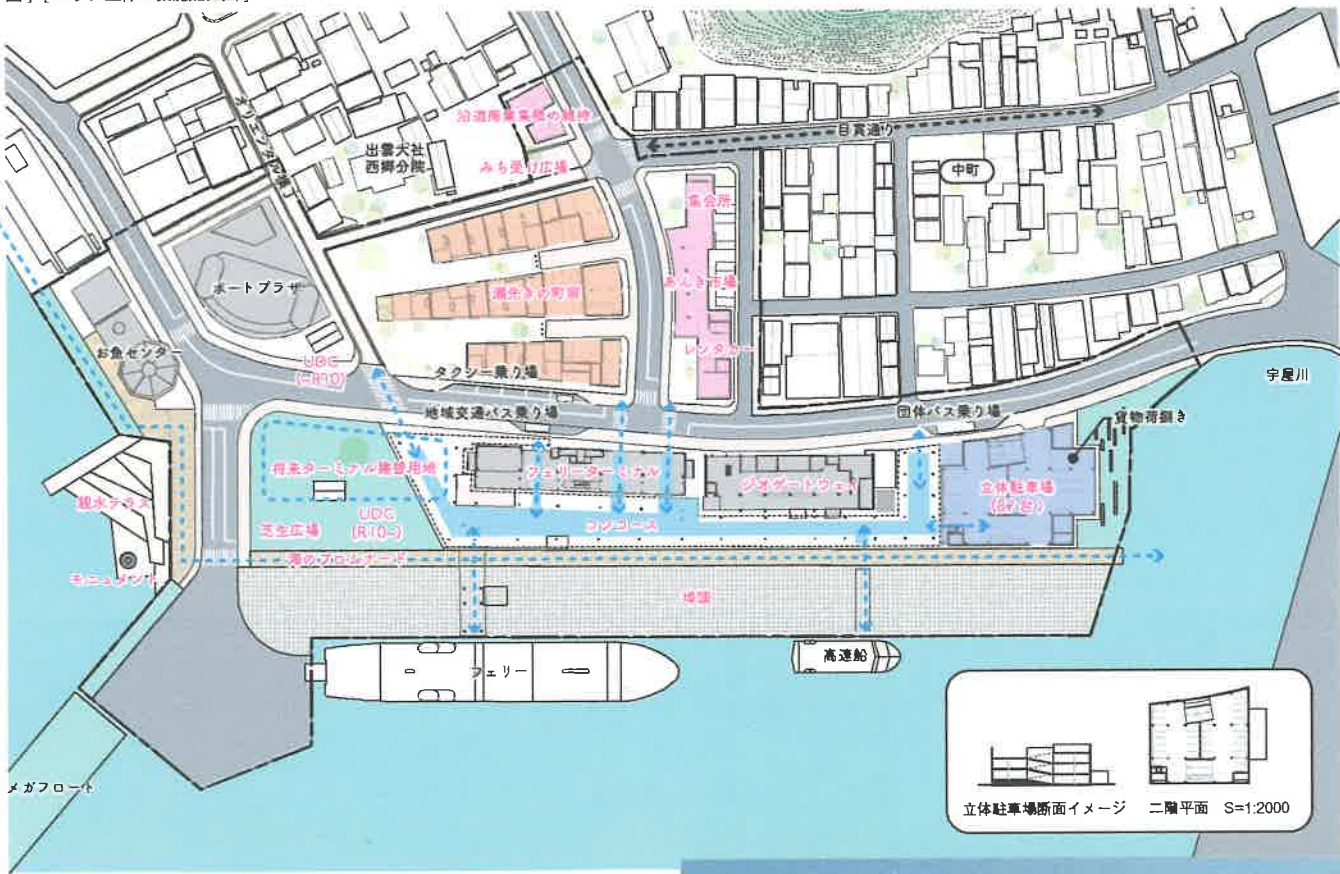
- 凡例
- 主要施設
 - 駐車場
 - 駅前乗り場
 - 区画整理対象
 - アバンデザインセンター
 - 海のアーカイブ
 - 緑地
 - あんき市場
 - コーコース

＜一期工事概要＞

- ・駐車場の集約
- ・スカイリッジの撤去
- ・道路の付替
- ・緑地の整備
- ・アバンデザインセンター設置
- ・海辺のアーカイブ設置

＜二期工事概要＞

- ・フェリーターミナルの改修
- ・民地の区画整理
- ・駅前乗り場の移設
- ・花壇の設置
- ・アバンデザインセンター設置
- ・海辺のアーカイブ設置



●機能配置図 1:1,500

人をつなぐ

〔交流機能に関する整備方針＋商業機能の整備方針〕

●アーバンデザインセンター (UDC) の設置

10年にわたるまちづくりの拠点として小住地区の大きなアーバンデザインセンターを設置し、計画に関する議論やワークショップ、情報発信、人材育成を行います。アーバンデザインセンターは最初がポートプラザ横に、立体駐車場の完成後は芝生広場に設置します。屋内に誰もが使える「まちキッチン」を備えることにより、食を中心とした交流の場としても活用します。

●創造の空間としての「芝生広場」

現在の駐車場跡地につくられる「芝生広場」にはアーバンデザインセンター以外の整備を行わず、将来的なターミナル建替え用地として保持します。隠岐の食材を用いたピクニック、観光客を迎える屋台村、夏祭りの利用など、芝生を活用するプログラムを町の皆さんと一緒に実現します。

●直売所の移転と風待ち通りのにぎわいの維持

地元の食材が並び幅広い人気を持つ直売所「あんき市場」をエリアの中心に配置し、町の皆さんと訪問客が町を訪れるきっかけをつくります。直売所近辺に日常利用の多い買回り品店を配し、店舗再配置の効果を最大化、風待ち街道のにぎわいの維持をはかります。店舗の最適な配置、望ましい駐車場規模については、町の皆さんとワークショップを重ねます。

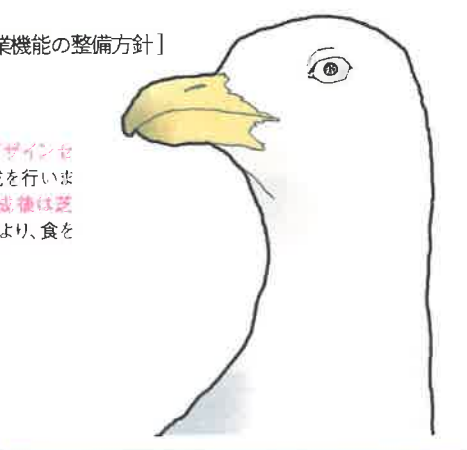
●直売所に隣接する集会所

直売所の隣に集会所を設け、さまざまな世代の方がふらっと立ち寄り、気軽にイベントや集会に参加できる「まいにち使い」の交流空間とします。

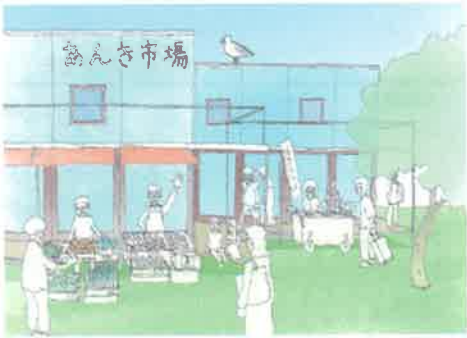
●瀬先きエリアにおける魅力ある「個店」の育成

思いがけない店との出会いは町あるきの楽しみのひとつです。風待ち通り沿いの買回り品店と好対照をなすように、店舗併用住宅の瀬先きの町家において個性ある雑貨店、飲食店の育成をはかります。県や町の起業支援プログラムを活用しつつ、町家全体、さらには地域一体での情報発信を行い、西郷をおしゃれで魅力あるエリアに育てていきます。

未来へ。



みなを迎える港をつくらう



整備のイメージその2：小路沿いに展開する瀬先きの町屋の暮らしと商業



海と暮らしをつなぐ

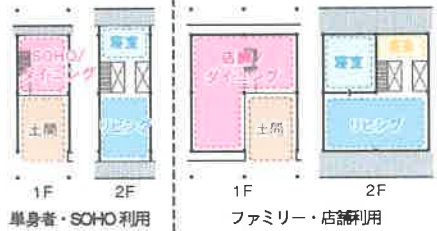
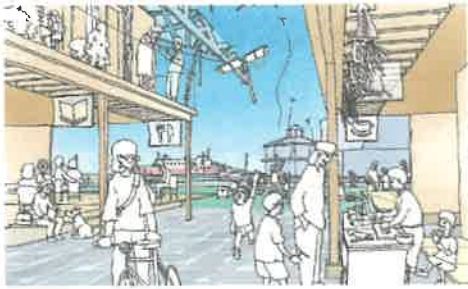
〔暮らし機能に関する整備方針〕

●海を感じる小路の暮らし

西日本でも西郷ほど気持ちよく過ごせる場所にはありません。西郷ならではの、海が見え、風の薫る暮らしを小路を挟んだ3棟の店舗併用住宅で実現します。生活空間にも店舗・工房にもできる土間を1階に、海風が通る快適な居室を2階に配し、おしゃべりやディスプレイの場となる縁側やバルコニーを小路沿いに設けます。ワークショップやヒアリングを通じ、西郷ならではのライフスタイルのイメージを町の皆さんとつくっていきます。

●フレキシブルな間取り・構法と対話を重視した設計手法

3棟の建物の計画にあたっては、①住み手のニーズに合わせた多様な間取り、②ライフステージに合わせて間取りを変更できる構法のフレキシビリティ、③店舗併用住宅に対応する設備のアダプタビリティに着目します。建築家との徹底的な対話によって計画をつくりあげるコーポラティブ方式を念頭に、個々のニーズに合わせた、きめ細やかな設計を行います。



安心をつなぐ

〔暮らし機能に関する整備方針〕

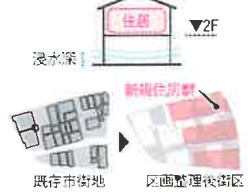
●西郷公園・防災広場と町のつながりの強化

街路の拡幅や新設を通して一時避難所に指定されている西郷公園へのアクセスを改善します。また、みち受け広場や芝生広場の防災広場化を図り、備蓄倉庫や防火水槽、マンホールトイレやかまどベンチなどの防災ファニチャーの設置を検討します。



●津波などの災害に強い安心安全の建物防災

津波による最大1.0mの浸水が予想される本エリアでは、①生活空間の上階配置、②防潮板などの水害対策設備の導入など、浸水に備えた建物防災を図ります。また、建物の不燃化や適正な区画整理による密集化市街地の改善を通して地震や火災につよい安心安全の建築を目指します。



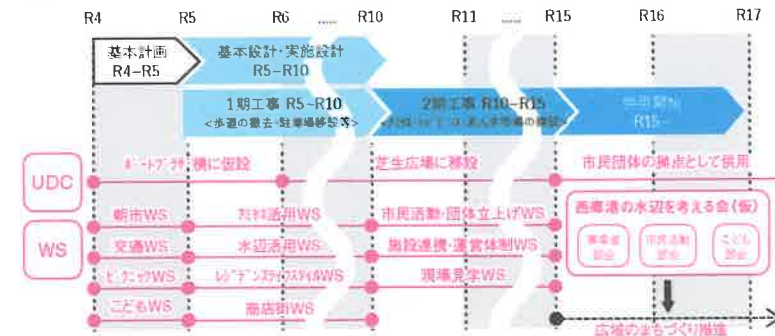
●面積表

建築	面積(m ²)	外構	面積(m ²)
あんき市場・集会所棟		コンコース	1,200
レンタカー	400	海のpromナード	
直売所	600	芝生	2,100
集会所	250	デッキ	1,600
小計	1,250	小計	1,250
瀬先きの町家		瀬先きの町家	
住宅	2,000	外構	1,500
店舗等	1,800	あんき市場棟	
小計	3,800	外構	700
立体駐車場	4,200	オリエンタル横丁	
その他店舗	280	大社小路	
フェリーターミナル	1,000		650

世代をつなぐ

〔整備する施設の利活用や運営に対する提案〕

●オープンなまちづくりの継続とシビックプライドの醸成



「隠岐の玄関口まちづくり談義」や「西郷12年後のエリア整備後に大人になる子どもたち向けのワークショップを特に重視し、隠岐の島町に対するシビックプライドを積極的に醸成します。

海をつなぐ

〔景観形成の方針〕〔設計趣旨〕

●海の景観の創出

海の交流の大きな窓を持つ西郷には、それをもたらした海の門＝開口を望むはたき町市計画が必要で、海のpromナード、陣屋通り、海の広場など、海とまちをつなぐ計画の実現には時間を要しますが、ターミナルエリアの整備は、この計画を前に進め、誰もが見たことのない景観を創出する歴史的な機会だと私たちは考えました。海をつなぐまち、西郷の未来へに向けて、本計画を提案します。

